

兵庫県南部大地震 記念の日 追悼礼拝次第

日 時 2026年1月17日(土)午後4時から
会 場 日本基督教団 神戸栄光教会
オンライン・ライブ配信(YouTube)
主 催 日本基督教団 兵庫教区



<https://www.uccj.hyogo.jp/>
教区事務所ホーム
ページQRコード

2026年1月17日、30年を越えて31年の追悼の時を迎えます。

あの時から、教会は何を問われてきたのか。

教区の被災者支援の現場の方々は、何を願っていたか。

忘れてしまうことなく、次の時代に引継がねばならないことが、

まだまだたくさん埋もれているだろうことを感じます。

あの時、そしてそれからの場を歩まれた方のお話をうかがい、

多くの犠牲や苦難があったことに心を寄せつつ、

今私たちは何を問われているのか。

これから何を願っていくのか。

それぞれの新たな始まりになればと思います。

※ 前奏の前に、西宮公同教会教会学校エイサー隊による、追悼のエイサー
演舞があります。

司式 やなぎたにふねこ 柳谷舟子(甲南教会)
 奏楽 のうじまあみ 能島亜未(神戸栄光教会)

前 奏	ただ愛する神に委ねるものは (J. S. バッハ)	奏楽者
招 き	詩編 132編8～9節 (p. 4)	司式者
告 白	被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白 (p. 5)	一 同
黙 祷		一 同
う た	主はわがかいぬし (『讃美歌21』 120:1～3節、p. 6)	一 同
祈 り		司式者
う た	あなたの道を (『讃美歌21』 528:1, 2節、p. 8)	一 同
聖 書	ヨハネによる福音書 8章27～30節 (p. 10)	司式者
説 教	『わたしはある』ということ 一生きることの座標軸一	<small>もちづきしゅうじ</small> 望月修治
う た	お招きに応えました (『讃美歌21』 448、p. 12)	一 同
献 金		一 同
祈 り	1月17日 人と自然の共存を祈る(p. 14)	一 同
終 祷		説教者
後 奏	この世はみな (D. ウッド)	奏楽者
報 告		

※ 礼拝献金は、教区被災者生活支援・長田センターを通じて、東日本大地震・津波・原発事故被災者、能登半島大地震・津波・豪雨災害被災者、「アハリー・アラブ病院を支える会」によるパレスチナ・ガザの人々の支援、ペシャワール会によるアフガニスタン東北地震被災者支援、等に用いさせていただきます。

オンラインの方は以下の口座宛に「追悼礼拝献金」と明記の上お振り込みください(1月末日締切)。

郵便振替口座 01120-7-25121 「日本基督教団兵庫教区事務所」

招き

しゅ た あ
主よ、立ち上がり

いこ ち すす
あなたの憩いの地にお進みください

ご じ し ん みちから しめ かみ はこ
あなた御自身も、そして御力を示す神の箱も。

つか さいし せいぎ ころも
あなたに仕える祭司らは正義を衣としてまとい

いつ い ひとびと
あなたの慈しみに生きる人々は

よろこ さけ
喜びの叫びをあげるでしょう。

詩編 132編8～9節(『聖書協会共同訳』)

告白 被災教区の震災5年目の宣教にあたっての告白

わたしたちは、地震と被災に関わる経験を通して示された、試練と恵みの神の働きを信じる。

わたしたちは、被災が一樣でなく極めて多様で、それぞれに固有の生活体験であることを知る。しかし、その個々の生活に働かれる神の臨在を認識した。そして固定化した福音理解、感性と想像力に欠けた信仰生活が厳しく問われたと信じる。

わたしたちは、非常時の中で教会の地域社会への関わりと参与、その日常性のあり方を問われた。被災の現実から教えられたのは、隣人への関心、関係の豊かさを生きることであると信じる。

わたしたちは、大地震という未曾有の出来事を経験した。おびただしい死を前に圧倒されながら、悲しむよりほかない現実と向かい合うことの大切さを知った。同時に、イエス・キリストにおいて歴史に啓示された神は、被災のただ中にも臨在されていることを信じる。

わたしたちは、現実の苦難の中にある生命の営みと、その出会いの中にこそ神は居られることを信じる。その信仰によって未知のものを踏み分けつつ言葉を紡ぎだしていくことが福音宣教と信じる。

わたしたちが被災の現実の中で、『地域の再生なくして、教会の復興はありえない』として歩んできたことが、神の前に立つわたしたちの信仰の応答であると告白する。

アーメン

うた 主はわがかいぬし (『讃美歌21』 120:1~3節)

The Lord's my shepherd, I'll not want
版 : William Whittingham, 1524-1579

CRIMOND
曲 : Jessie S. Irvine, 1836-1887



1 主 は わ - が か - い ぬ し
2 あ お く - さ の - は ら し
3 主 は わ - が た - ま し い



わ れ - は ひ つ じ、 み め - ぐ み に
わ れ - を か ふ え さ せ、 い た こ - い の み
生 き - か え さ せ、 た だ - し き み



よ - り て す べ - て た れ り。
ず - べ に と ち も - な た た もう。
ち - へ と み ち - び き た もう。

(♩=96)

1 ^{しゅ}主はわがかいぬし われはひつじ、
みめぐみによりて ^たすべて足れり。

2 ^{あおくさ}青草の^{はら}原に ^ふわれを伏させ、
^{いこ}憩いの^{みずべ}水辺に ^{ともな}伴いたもう。

3 ^{しゅ}主はわが^{たましい}魂 ^い生きかえらせ、
^{ただ}正しき^{みち}道へと ^いみちびきたもう。



うた あなたの道を（『讃美歌21』 528:1、2節）

Befiehl du deine Wege
詞：Paul Gerhardt, 1607-1676

BEFIEHL DU
曲：Johann M Haydn, 1737-1806



1 あ な た の - み - ち - を 主 に ま - か せ て
2 ど ん な と - き - に - も み ち を - そ な え、 >



お も い わ - ず - ら - い 主 に ゆ - だ ね よ。
> あ な た の - わ - ざ - を か み は - し ゅ く す。 >



く も と か ぜ に - も み ち を し - め - す
> い つ も あ な た - の さ き に す - す - み >

か み は あ ゆ み - を み - ち び - か れ る。
 ひ か り を て ら - し み - ち び - か れ る。

(♩ = 88)

1 あなたの道を 主にまかせて
 思いわずらい 主にゆだねよ。
 雲と風にも 道を示す
 神は歩みを 導かれる。

アーメン。

2 どんな時にも 道を備え、
 あなたのわざを 神は祝す。
 いつもあなたの 先に進み
 光を照らし 導かれる。

聖書 ヨハネによる福音書 8章27～30節

27 ^{かれ}彼らは、^{おんちち}イエスが^{はな}御父について話しておられることを^{さと}悟らなかつた。28 ^いそこで、イエスは言われた。「^{ひと}あなたたちは、^こ人の子を^あ上げたときに^{はじ}初めて、『わたしはある』ということ、また、わたしが、^{じぶん}自分勝手に^なは何もせず、ただ、^{ちち}父に^{おし}教えられたとおりに^{はな}話していることが^わ分かるだろう。29 ^{わたし}わたしをお^{つか}遣わしになった方は、^{かた}わたしと^{とも}共にいてくださる。わたしをひとりにはおかけない。わたしは、^{かた}いつもこの方の^{みこころ}御心に^{かな}適うことを^{おこな}行うからである。」30 これらのことを^{かた}語られたとき、^{おお}多くの人々が^{ひとびと}イエスを^{しん}信じた。

(『新共同訳聖書』)

『わたしはある』ということ — 生きることの座標軸 —

望月修治

もちづきしゅうじ

望月修治／1950年生まれ。同志社大学文学部社会学科(社会福祉学専攻)卒業。同志社大学神学研究科前期課程(聖書神学専攻)修了。伊丹教会担任教師、東神戸教会、大津教会・愛光幼稚園園長、同志社教会主任担任教師を経て、2024年3月まで3年間東灘教会代務者。現在、日本基督教団隠退教師。1995年兵庫県南部大震災発生時は東神戸教会に在任。教会は会堂建築工事中であった。教会周辺は全壊地域となり、避難生活を送った。京都いいの家めぐみホームのスタッフを中心に震災直後から主に灘区・東灘区において「被災障がい児・者支援の会」の活動が開始された。その活動を引き継ぎ1996年4月より「被災障がい児・者支援の会兵庫」の立ち上げに責任者として関わった。三名のコーディネーターによってボランティアのスケジュールが組まれ、支援活動を行った。ボランティアのひとりとしても、仮設住宅のトイレ掃除、入居者の部屋の片付けと清掃、買い物の付き添い、病院受診の送迎などに参加した。

うた お招きに応えました (『讃美歌21』 448)

Lord, we have come at your own invitation
詞 : Fred Pratt Green, 1903—

O QUANTA QUALIA
曲 : Antiphoner, 1681

1 お ま ね き に こ た え ま し た り、
2 主 を か こ の ま じ わ た り。
3 主 の も こ の う た び に
4 世 に 生 き る そ の げ ば で

と も と よん で く だ - さ る 主 よ。
あ た した い ち だ く さい る た て
「エ ス し どり き め は る すき るに
み ス だ こ き め は る すき るに
み ス だ こ き め は る すき るに

あ な た こ り そ ち か ら の か み
た な の り そ ち か ら の か み
す み こ り そ ち か ら の か み
み こ り そ ち か ら の か み

さ つ ま え さ げ ま - す、 わ が す べ て を。
 つか ま え かな ば せ - す、 よ ろ だ こ び も っ て。
 え なら ば せ - て く だ さ い、 主 主 よ。

(♩ = 60)

- 1 お招きに応えました、
 友と呼んでくださる主よ。
 あなたこそ 力の神
 ささげます、わがすべてを。

- 2 主を囲むこの交わり。
 新しい誓いをたて
 たかぶりの心を捨て
 仕えます、喜びもって。

- 3 主のもとに集うたびに
 「イエスを主」と告白する
 その意味をさらに深く
 学ばせてください、主よ。

- 4 世に生きる その現場で
 右左 決める時に
 みこころにかなう道を
 選ばせてください、主よ。

アーメン。

祈り 1月17日 人と自然の共存を祈る

かみ
神さま、

わたし し ぜん なか い い かんしゃ
私たちが自然の中で生き、生かされていることを感謝します。

じぶん おお し ぜん なか いちぶ
でも、自分たちも大きな自然の中の一部であって、その
し ぜん なか い わす
自然の中で生かされているということをすぐに忘れてしまい
ます。いつも人間だけが、人間の知恵や力によって生きて
いて、その上、じぶん し ぜん しはい
自分たちが自然を支配しているかのように
かんちが
勘違いしてしまいます。

おおじしん じぶん かんが いじょう
あの大地震をとおして、自分たちが考えている以上に
さまざま ささ はげ し え いま わたし
様々な支えや励ましがあつたことを知り得た今、私たちは
し ぜん たい ささ なぐさ とも い なかま
自然に対しても、支えられ、慰められ、共に生きている仲間
であることを覚えていきたいと思ひます。

けつ にんげん し ぜん しはい
決して人間が自然を支配しているものではないというこ
とを覚えてるために。

アーメン